

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和7年度11月号

○ 概要

- (1) 令和7年度11月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,033億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+1.9%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,541円（伸び率+4.4%）であった。（→P.1,2）
調剤医療費の内訳は、技術料が1,961億円（伸び率▲0.0%）、薬剤料が5,058億円（伸び率+2.7%）、薬剤料のうち、後発医薬品が938億円（伸び率▲6.6%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,225円（伸び率+3.2%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.86種類（伸び率+0.2%）、26.6日（伸び率+0.0%）、69円（伸び率+2.9%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,851億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+30億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の722億円（伸び幅▲19億円）で、伸び幅が最も高かったのは62 化学療法剤の+59億円（総額226億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,851 億円 (+30 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(722 億円)	21 循環器官用薬 (553 億円)	42 腫瘍用薬 (530 億円)
0歳以上 5歳未満	20.0 億円 (▲1.0 億円)	44 アレルギー用薬 (4.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.8 億円)	62 化学療法剤 (3.7 億円)
5歳以上 15歳未満	122.8 億円 (+14.6 億円)	44 アレルギー用薬 (31.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (27.8 億円)	62 化学療法剤 (23.1 億円)
15歳以上 65歳未満	1,492 億円 (+43 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(276 億円)	11 中枢神経系用薬 (274 億円)	42 腫瘍用薬 (175 億円)
65歳以上 75歳未満	733 億円 (▲34 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(166 億円)	42 腫瘍用薬 (135 億円)	21 循環器官用薬 (120 億円)
75歳以上	1,484 億円 (+8 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(270 億円)	21 循環器官用薬 (265 億円)	42 腫瘍用薬 (214 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,541円（伸び率+4.4%）で、最も高かったのは高知県（11,674円（伸び率+6.7%））、最も低かったのは佐賀県（8,562円（伸び率+5.8%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは和歌山県（伸び率+7.0%）、最も低かったのは島根県（伸び率+1.7%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注1)}	91.8 %	+1.2 %
薬剤料ベース（新指標） ^{注2)}	78.9 %	+2.2 %
後発品調剤率	82.0 %	▲1.4 %

注1) 〔後発医薬品の数量〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量]) で算出。

注2) 〔後発医薬品の薬剤料〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料〕 + 〔後発医薬品の薬剤料]) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲6.6 %	+2.0 % (15歳以上 20歳未満)	▲11.2 % (80歳以上 85歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	78.9 %	87.3 % (100歳以上)	70.6 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	91.8 %	94.0 % (0歳以上 5歳未満)	90.7 % (80歳以上 85歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	800 億円 (▲45 億円)	21 循環器官用薬 (240 億円)	11 中枢神経系用薬 (140 億円)	23 消化器官用薬 (87 億円)
0歳以上 5歳未満	9.1 億円 (+0.4 億円)	44 アレルギー用薬 (3.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.8 億円)	62 化学療法剤 (2.0 億円)
5歳以上 15歳未満	23.4 億円 (▲0.9 億円)	44 アレルギー用薬 (10.4 億円)	62 化学療法剤 (4.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.6 億円)
15歳以上 65歳未満	286 億円 (▲17 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (67 億円)	44 アレルギー用薬 (30 億円)
65歳以上 75歳未満	152 億円 (▲13 億円)	21 循環器官用薬 (57 億円)	11 中枢神経系用薬 (20 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(17 億円)
75歳以上	330 億円 (▲14 億円)	21 循環器官用薬 (114 億円)	11 中枢神経系用薬 (51 億円)	23 消化器官用薬 (44 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~59）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,273 円	1,656 円(北海道)	1,120 円(東京都)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.4%	▲1.9 % (青森県)	▲6.5 % (京都府)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	91.8 %	94.7 % (沖縄県)	89.4 % (徳島県)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	78.9 %	84.3 % (鹿児島県)	73.8 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	82.0 %	85.2 % (秋田県)	79.2 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和7年度11月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。